

## 第2章 総合戦略

---



## 第1節 総合戦略の趣旨

### 1 目的

日本全体の問題となっている少子高齢化の流れの中で、地方においては働き手・担い手である若者の減少や地域の賑わいの喪失などの問題が顕著となっており、自治体が定住促進を図ることは共通の大きな課題となっています。

定住促進のためには、自治体の人々に「選ばれる」必要があります。「選ばれるまち」づくりを進めるためには、自治体が置かれている状況を十分に把握し、状況に合った独自の施策を展開すること、そして自治体を持つそれぞれの個性を明確にすることが重要となってきます。

本市には、那須疏水の開削のために様々な開拓者を受け入れて以降、人と自然との共生を育んできた「選ばれしまち」としての歴史があり、今なお、この時代に培ったフロンティアスピリッツを引き継ぐ文化・風土が残っています。

このように移住者を受け入れる体制の整った本市の特徴を活かしつつ、本市独自の施策展開、個性を明確にすることで定住促進を図り、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラル(悪循環の連鎖)に陥らないようにするため、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、平成26年3月に策定した「定住促進計画」を改定し本市の総合戦略とすることで、人口減少克服と地方創生に取り組んでいきます。

### 2 総合戦略の位置づけ

総合戦略は、喫緊の課題である人口減少問題に対応し、地方創生を成し遂げていくため、「第1章 人口ビジョン」に掲げた、本市の未来に向けた4つの基本方針「未来を拓く子どもたちの健やかな成長のために」「未来を創る地域産業の活性化のために」「未来に集う人々の活発な交流のために」「未来を守る災害対応力の強化のために」に基づき、各種の個別計画との整合を図りながら、分野横断的に取り組む「戦略的ビジョン」として位置づけ、今後の取り組みについてまとめたものです。

また、社会経済情勢や市民ニーズへの確かつ柔軟な対応ができるよう、必要に応じて見直しを行うこととします。

### 3 計画期間

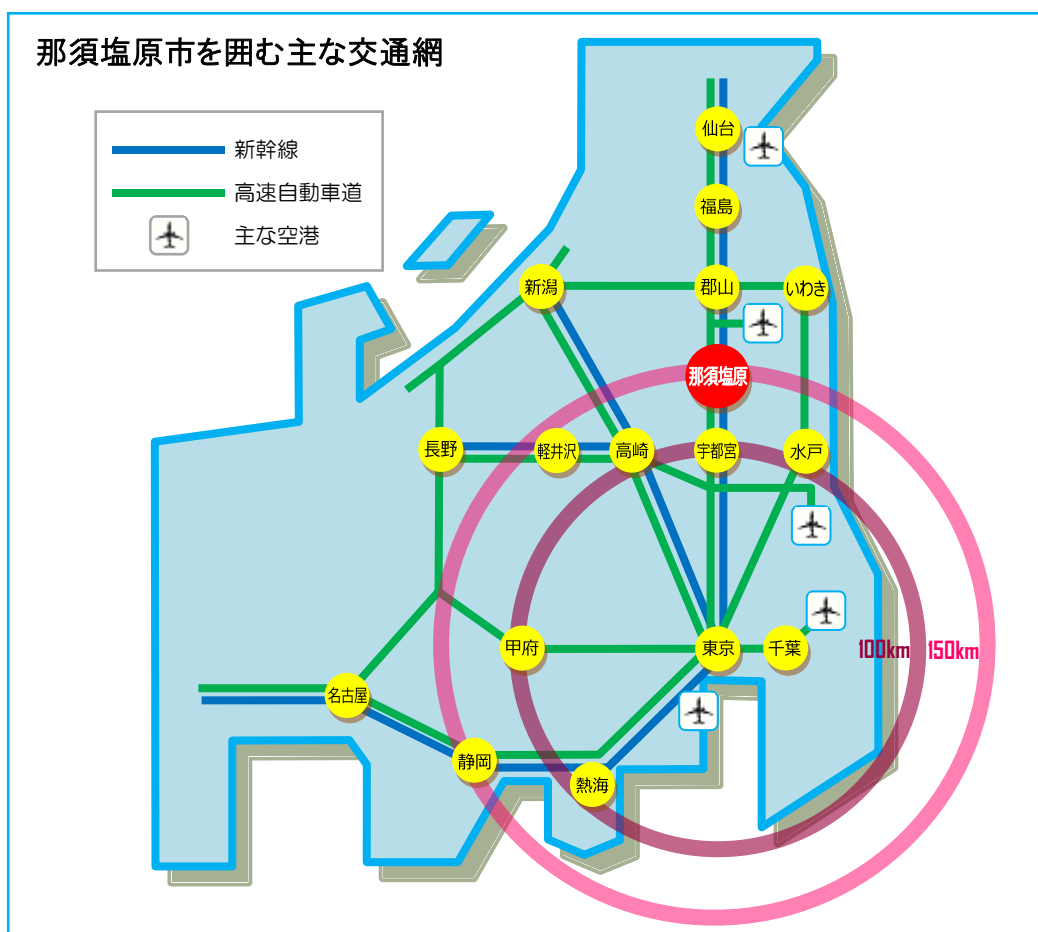
平成27(2015)年度から令和3(2022)年度までの7箇年の計画とします。

## 第2節 那須塩原市の現状

### 1 位置・交通

本市は首都東京から150km圏に位置しています。新幹線を利用すれば東京駅から那須塩原駅まで最短70分、また高速自動車のインターチェンジが市内に2か所あり、交通の要衝となっています。

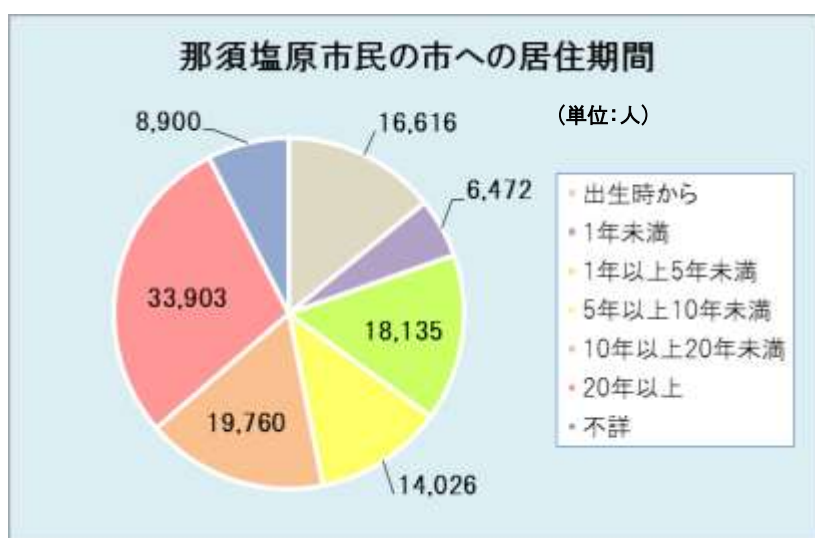
JR那須塩原駅の乗車人員は、1日平均5,300人余りで、平成26年度から増加傾向です。



資料：JR東日本ホームページの公表データより作成

## 2 市への居住期間

市民が本市にどれだけの期間居住しているかを見てみると、「10年以上20年未満」と「20年以上」の合計で53,663人、約46%となっています。「出生時から」の居住者も16,616人で14%を占めていますが、この中にも長期居住者がいると考え、約半数は10年以上居住し続けていることが分かります。逆に「1年未満」の人は6,472人で5%となっています。

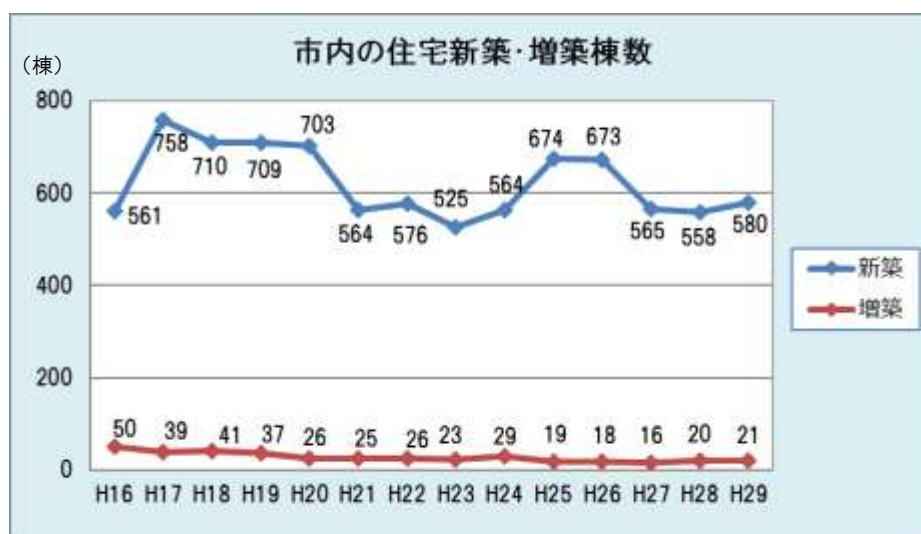


資料:ふるさとウォッチング 統計から見た なすしおばら 第2版(平成24年12月)

## 3 住宅建築

本市の住宅新築・増築の動きを見ると、住宅新築は平成17年から20年まで700棟台で推移していましたが、平成21年には564棟に減少し、平成24年までほぼ横ばいの状況でした。平成25年と26年は、それぞれ674棟、673棟と回復の兆しを見せましたが、翌年以降は落ち込んでいます。

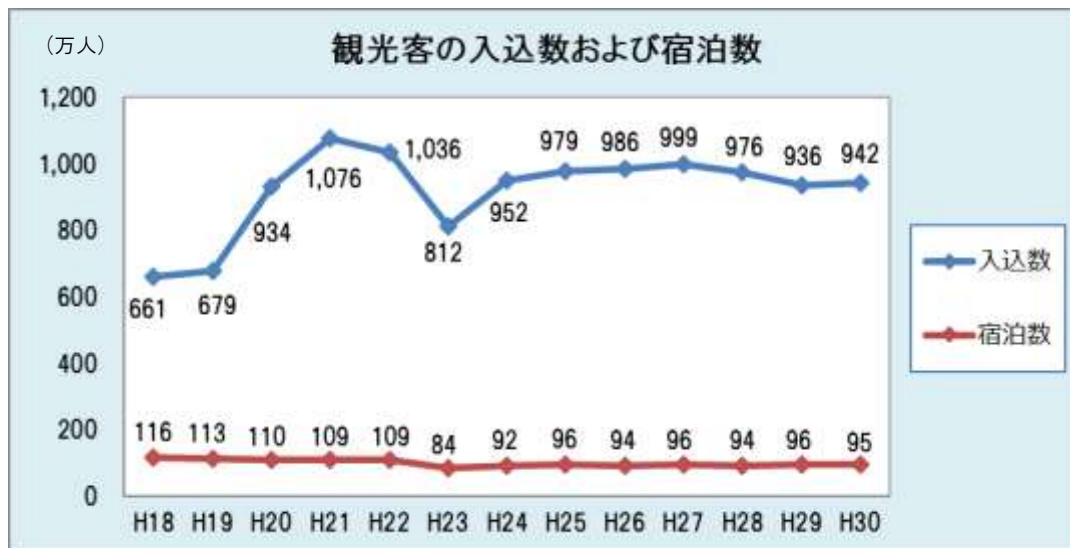
これは、平成26年4月の消費増税による駆け込み需要の影響だと考えられます。



資料:那須塩原市統計書

#### 4 交流人口

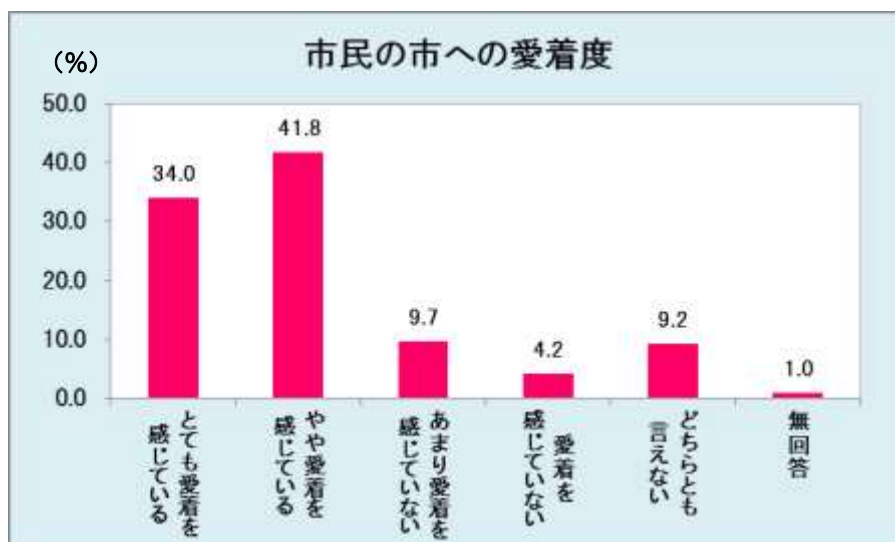
本市の観光客入込数は、平成22年には1,000万人を超えていましたが、東日本大震災等の影響により平成23年には812万人まで落ち込みました。宿泊者数の推移についても同様の傾向が見られ、現在は回復の兆しを見せていますが、依然として苦戦が続いています。



資料：那須塩原市統計書

#### 5 市への愛着度

市への愛着を感じている人は「とても愛着を感じている」と「やや愛着を感じている」を合わせて全体の75.8%になります。一方で「愛着を感じていない」人の割合も1割を超えています。



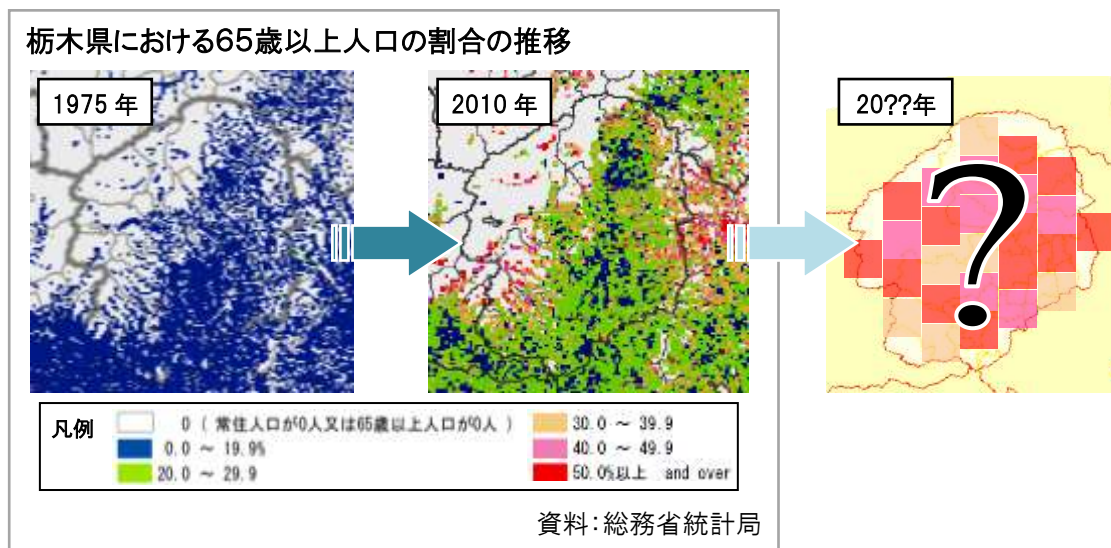
資料：第2次那須塩原市総合計画策定に関する市民アンケート調査結果報告書



## 第3節 課題

### 1 超高齢社会への対応

本市の少子高齢化は全国平均と比べて緩やかに進むものの、将来的な高齢者人口の増加は避けられない状況にあります。加えて、高齢者の単独世帯や高齢者夫婦のみの世帯が増加することにより、日常生活において支援を要する方も増えることが予想されます。



現状のままでは、高齢者を支える立場となる地域の若者が減少し、地域による支え合い生活の維持が困難になります。

今後、若い世代の定住者をどのように増やしていくかが重要となります。

### 2 コミュニティの再生

世帯の単独化や核家族化は、日常生活における多世代交流や近所付き合いの減少を引き起こし、結果として地元への愛着が薄れ、地元離れが進むことにつながります。

WEBアンケートの分析から、親世帯との同居の促進や地域コミュニティの持続などが重要と考えられます。

### 3 「オール那須塩原」による受け入れ体制の構築

本市に住んでもらうにあたり、「長く住みたい」と思えるような居住環境や、「安心して子育てができる」と思ってもらえる子育て環境の整備などに加え、市からの的確な情報提供、相談窓口の明確化が必要です。

また、定住を考えるにあたり、「そのまちに行ったことがあること」は、住む場所を決める大きな要素となります。回復傾向にある本市の交流人口ですが、来訪者をリピーターにし、後の定住につなげていくためには、官民一体となった市全体での「おもてなしの心」の向上が重要です。



#### 4 シティプロモーションの強化

WEBアンケートの分析から、「イメージ戦略」や「自然を具現化したPR」などの必要性が高いことが分かりましたが、現在はそれぞれが個別にPR活動を行っており、戦略的なものではありませんでした。

本市には、風光明媚な自然や本州一の生産を誇る生乳、多様な農産物、交通の要衝などの地域資源が存在しています。この地域資源を活用し、市の魅力を高めていくこと、さらには市の魅力＝「市のイメージ」を市内外へ発信し広めていく「シティプロモーション」を効果的に行い、類似する自治体との差別化を図り、観光客や転入者を増やすとともに、住民に誇りや地元愛を根付かせることが重要となります。





## 第4節 目標

人口減少問題についての危機感と問題意識を市民とともに共有し、総合戦略における各種施策を推進していくため「第1章 人口ビジョン」で示す短期的目標、中期的目標を目指し、官民一体となった取組を行っていくこととします。

本市の定住促進計画において、当初設定した定住促進の指針である将来的な目標値を総合戦略の計画期間に継承することとします。

### 1 短期的目標：総合戦略期間内(平成27年度～令和3年度)

市への転入者数が転出者数を上回ること。

### 2 中期的目標：10年後を見据えて(～令和6年度)

目標人口115,800人を維持すること。

生産年齢人口比率60%を維持すること。

那須塩原市に愛着を感じている人の割合が80%以上であること。

### 3 目標の実現に向けて

本市の地域ブランドメッセージ



## 「エールなすしおばら ～夢が動き出すまち～」

夢に向かって頑張る人を応援するまちとして、本市の魅力や地域性を市民と共有し、一体となって情報発信を行っていくとともに、「転出の抑制」と「転入の促進」とを両軸にした定住促進施策を推進していくことで、目標の実現を目指していきます。

## 第5節 ターゲットとニーズ

総合戦略の計画期間である短期的目標並びに10年後を見据えた中期的目標を達成するため、各年代層のそれぞれが持つ思考・悩みを想定することで、求めるニーズの明確化を図ります。

### 1 ターゲットの設定

定住促進施策を展開するためには、「移住・定住を考えている人＝ターゲット」のライフスタイルを把握することが重要となります。「第1章 人口ビジョン」に掲げたグループインタビューやWEBアンケートの結果を踏まえ、ここでは本市の定住促進ターゲットとして4つの年代を設定します。

## TARGET・1

ターゲット① ▶▶児童・生徒

### 【想定するイメージ】

本市での生活を満喫中。これから市外へ転出する可能性が高い若者。

那須塩原市に生まれた私。今は学校に通う毎日。たまに友達とケンカもするけど、ここでの生活にさほど不満もなく、充実した生活を送っている。

最近「那須塩原のどんなところが好き？」って聞かれたけど、何って聞かれると…うまく答えられない。通学途中に見える山の景色も好きだし、おしゃれなカフェもあるけど、那須塩原の魅力って何だろう？

学校では那須塩原の開拓の歴史を教えてくれる。

「開拓者の精神」って何だろう？「何事にもくじけず挑戦する心」って先生は言うけど、私たちにもそういう気持ち、少しはあるのかな？

とにかく今は、ここで楽しく暮らしたいなあ。

もう少ししたら、進学とか考えなくちゃいけないけど…。

### ◆ターゲットが求めるニーズ

→毎日の生活を楽しくするための情報が得られているか？

→転出後、地元に戻ってきたいと思う魅力があるか？



## TARGET・2

ターゲット② ▶▶▶20代前半

### 【想定するイメージ】

本市出身者が市外へ進学し、現在就職活動中。地元で就職したい20代前半の若者。

那須塩原を離れて3年、学生生活もいよいよ大詰め。仲のよかった仲間も最近では就職活動に勤しんでいる。私もぼちぼち就活しているけど、なかなか内定が決まらない。

地元を離れてみて思ったけど、那須塩原は新幹線の駅とか高速道路とかもあって、わりとどこにでも行きやすいし、余暇を楽しむスポットも結構ある。

親は「帰ってきたら？」ってしきりに言え、帰って働いてもいいけど、働き先があるかいまいちよくわからない。就職情報でもあるといいんだけど。

就職はもちろん心配だけど、地元に戻ったらいい「出会い」があるのかも心配。昔の友達は居るけど、新しい出会いも欲しいなあ…。

将来は、実家の隣に自分の家でも建てようかな？

### ◆ターゲットが求めるニーズ

- 地元での雇用があるかどうか？
- 必要な情報が的確に提供されているか？
- 移住に対する支援施策があるか？

## TARGET・3

ターゲット③ ▶▶▶20代後半～30代前半

### 【想定するイメージ】

もともとは地方出身者だが、都心での学生生活を経てそのまま都心に就職。しかし、毎日に疲れが出てきた30代前後の若者。

東京での学生生活を過ごした私は、そのまま都内の企業に就職しました。

最初のうちは新しい刺激も多く、やりがいのある仕事でもあり一生懸命働いてきましたが、最近では毎朝満員電車で1時間以上揺られる生活に、ちょっと疲れてきています。

いま結婚を意識しているパートナーがいますが、自然に困まれたところでの生活に憧れているようです。出会ったころに行った那須塩原への温泉旅行や牧場体験の話をよくします。自分の地元にも雰囲気似ているし、思い切って引っ越すことも考えています。新幹線での通勤を職場が許してくれればの話ですが…。

今のスキルを生かした転職ができれば、それもいいかもしれないですね。

緑もゆかりもない土地での生活には、少し不安もあります。

◆ターゲットが求めるニーズ

- 転職する場合、雇用があるかどうか？
- 転職しない場合、都心へ通勤するための有利な条件があるかどうか？
- 新規移住者を受け入れる体制が構築されているか？

## TARGET・4

ターゲット④ ▶▶▶30代後半～40代前半

【想定するイメージ】

都心に在住、職業はIT関係。共働きしながら、毎日の子育てに奮闘している40代前後の夫婦。

結婚して10年が過ぎ、仕事に家事に何かと忙しい日々を送っています。  
子どもは2人。上の子は小学校、下の子は保育園に通っています。最近、教育に対しての話を夫婦ですることが多くなりました。子どもを伸び伸び育てられる環境に憧れます。  
今はアパート住まいですが、家族4人では手狭になってきているので、そろそろ自分の家が欲しいです。都心で中古のマンションを買うくらいなら、少し遠くても広い一戸建てが欲しいので、どこかいい場所があったら教えてください。仕事はどこでもできるので。  
理想は、そこそこ都会で、そこそこ田舎。災害が少なく、夜には星がよく見えて、ある程度の近所付き合いがあったほうが安心して暮らせそう。  
…そんなところ、ありますか？

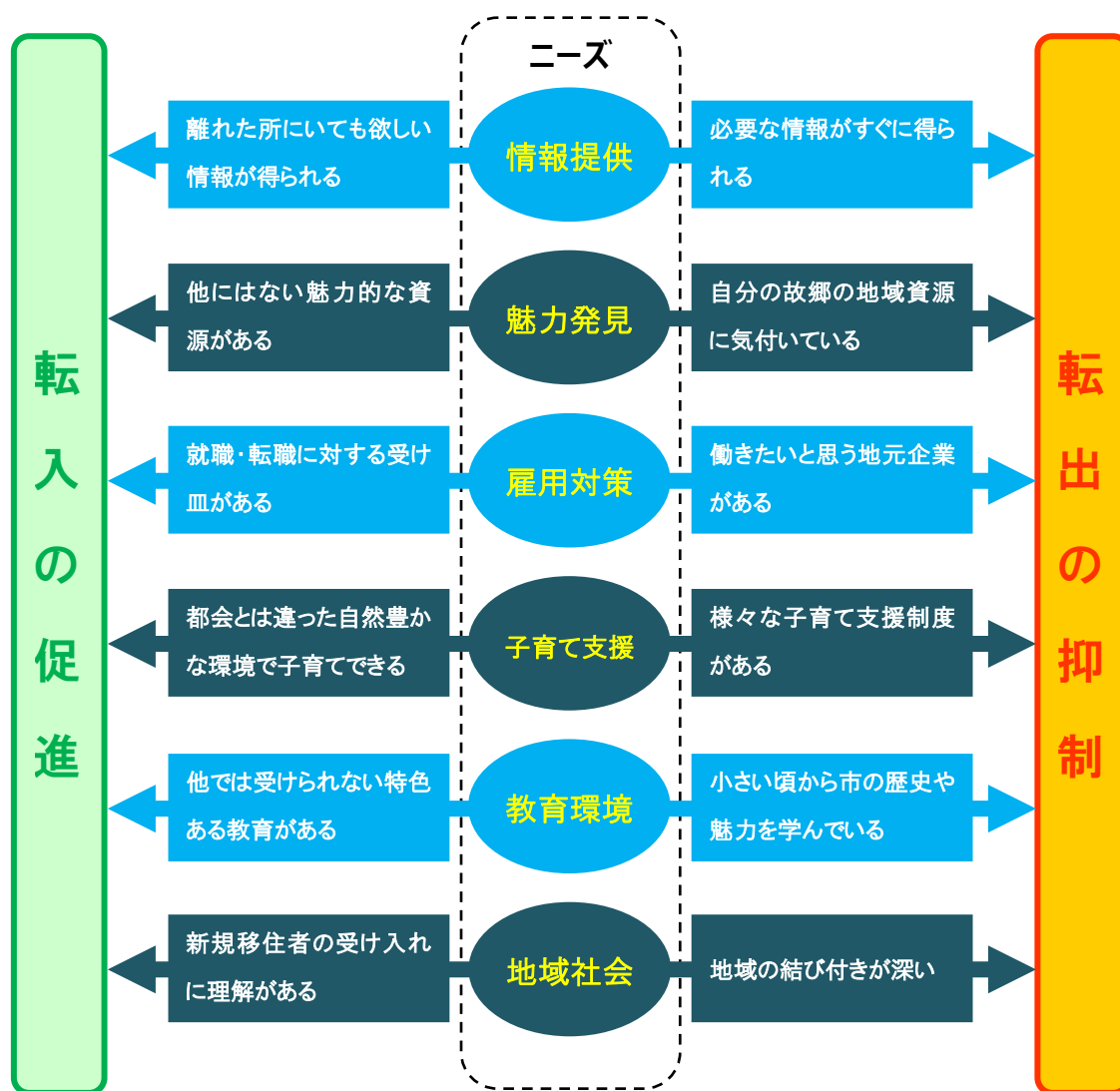
◆ターゲットが求めるニーズ

- 家族が安心して暮らせるか？
- 子育て環境・教育環境が充実しているか？
- 新規移住者を受け入れる体制が構築されているか？



## 2 ニーズの把握

ターゲットごとのニーズに対応するための方向性として、大きく分けると「**転出の抑制**」と「**転入の促進**」の2つが挙げられます。本市に既に住んでいる人と、新たに本市に移り住んでくる人の両方に対するのニーズを把握し、どのような視点で施策を検討していくかが重要となります。



## 第6節 施策の方向性

### 1 国の「総合戦略」における4つの基本目標、政策5原則

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、以下の4つの基本目標を設定し、地方における様々な政策による効果を集約し、人口減少への歯止め、「東京一極集中」の是正を着実に進めていくこととしています。

#### <基本目標>

- ① 地方における安定した雇用を創出する
- ② 地方への新しいひとの流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

また、人口減少の克服と本市の創生を確実に実現するため、総合戦略に盛り込まれた「まち・ひと・しごと創生」政策5原則（自立性・将来性・地域性・直接性・結果重視）の趣旨を十分に踏まえ、関連する各施策を展開していきます。

### 2 市の中長期的な取組と国の基本目標との関連

将来の人口減少への危惧を打開し、持続可能な市政運営を行っていくためには、将来にわたり活力ある発展をしていくことが重要であることと併せ、高度経済成長期以降に集中的に整備された都市インフラや公共施設の多くが耐用年限を迎えつつあり、老朽化の進展への対策が今後の大きな課題となっています。

これらの課題を踏まえ、行財政の改革により財政の健全化に努め、捻出した財源を将来に向けて投資するという考え方のもと、中長期的な施策として4つの基本方針を掲げ、定住促進施策を優先的かつ重点的に取り組んでいます。

本市が優先的に取り組むこととしている基本方針と国の「総合戦略」における基本目標との関連は、以下のとおりとなります。

#### 【未来を拓く子どもたちの健やかな成長のために】

豊かな自然のなかで健やかに安心して子育てができるよう、子育て施設の整備と子育てサービスの充実を図るとともに、本市の特色を活かした教育を推進し、ふるさとを愛する子どもたちを育てます。

⇒<国の基本目標③> 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### 【未来を創る地域産業の活性化のために】

地域の活力を生み出すために、農林畜産業・観光業・商工業など本市の基幹産業を守るとともに、地域資源を活用した新たな産業の創出に努めます。

⇒〈国の基本目標①〉 地方における安定した雇用を創出する

⇒〈国の基本目標②〉 地方への新しいひとの流れをつくる

### 【未来に集う人々の活発な交流のために】

地域内外の人々が集う交流拠点づくりのコンセプトを共有するとともに、賑わいがあり、安全に安心して暮らせる地域づくりを推進します。また、情報通信社会に対応し、地域に住む人々の情報共有・情報発信の場を設けます。

⇒〈国の基本目標②〉 地方への新しいひとの流れをつくる

⇒〈国の基本目標④〉 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

### 【未来を守る災害対応力の強化のために】

自助・共助・公助の連携により、災害に対する備えを強化するとともに、再生可能エネルギーの効率的な利用を促進します。また、公共施設やインフラの老朽化に計画的に対応し、災害に強いまちづくりを推進します。

⇒〈国の基本目標④〉 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する



### 3 基本目標及び数値目標の設定

国の「総合戦略」における基本目標との関連も踏まえ、本市が優先的に取り組んでいる4つの基本方針を本市の「総合戦略」の基本目標とします。

また、基本目標における数値目標を以下のとおり設定します。

#### 【基本目標①】 未来を拓く子どもたちの健やかな成長のために

⇒＜国の基本目標③＞ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

目 標 指 標	基準値(平成22年度)	目標値(令和3年度)
子育て環境の充実に対する市民満足度	48点	60点以上
目 標 指 標	基準値(平成25年度)	目標値(令和3年度)
合計特殊出生率	1.47	1.62

#### 【基本目標②】 未来を創る地域産業の活性化のために

⇒＜国の基本目標①＞ 地方における安定した雇用を創出する

⇒＜国の基本目標②＞ 地方への新しいひとの流れをつくる

目 標 指 標	基準値(平成22年度)	目標値(令和3年度)
就業者数	59,140人	60,000人

#### 【基本目標③】 未来に集う人々の活発な交流のために

⇒＜国の基本目標②＞ 地方への新しいひとの流れをつくる

⇒＜国の基本目標④＞ 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

目 標 指 標	計画期間(平成27年度～令和3年度)各年度
人口の社会増減数(定住促進計画において設定した短期的目標の継承)	市への転入者数が転出者を上回ること

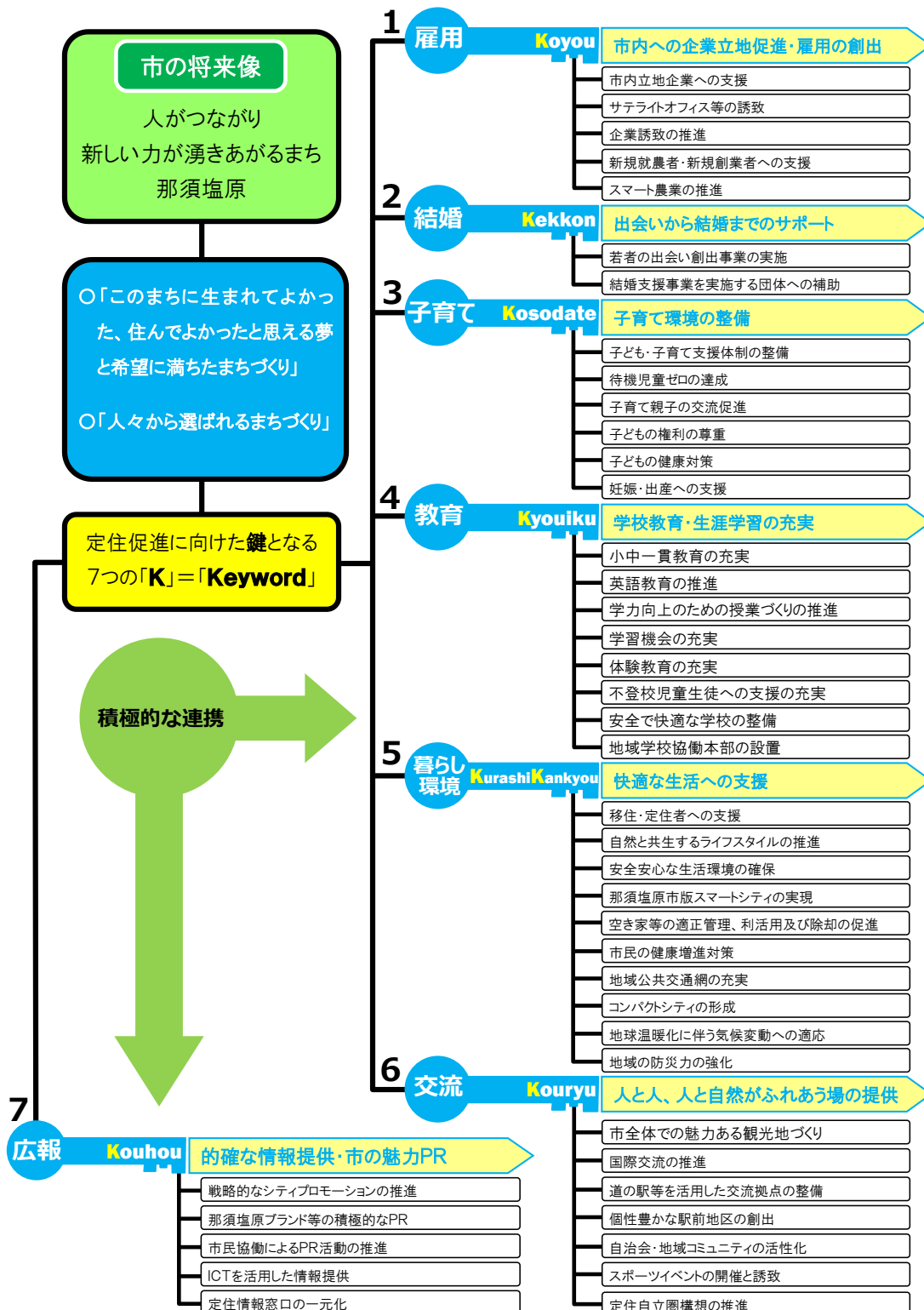
**【基本目標④】 未来を守る災害対応力の強化のために**

⇒〈国の基本目標④〉 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

目 標 指 標	基準値(平成22年度)	目標値(令和3年度)
災害に対する備えの強化 と生活安全確保に対する 市民満足度	59点	65点以上

## 第7節 重点施策

市総合戦略における4つの基本目標の達成に向け、各種施策の実施を着実に推進していくため、定住促進に向けた**鍵となる言葉(Keyword)**として7つの「**K**」、「**Koyou**(雇用)」、「**Kekkon**(結婚)」、「**Kosodate**(子育て)」、「**Kyouiku**(教育)」、「**Kurashi・Kankyou**(暮らし・環境)」、「**Kouryu**(交流)」、「**Kouhou**(広報)」を軸として、定住促進施策を展開していきます。



# 1. **Koyou**（雇用）【市内への企業立地促進・雇用の創出】

## 【基本目標②】 未来を創る地域産業の活性化のために

### (1) 市内立地企業への支援

新たに本市へ進出する企業の増加や、現在市内に立地している企業の市外流出を防ぐため、企業への奨励制度を創設するほか、地元企業等への就職を支援します。

### (2) サテライトオフィス<sup>※</sup>等の誘致

那須塩原駅周辺が首都圏との良好なアクセス性を持つことから、駅周辺でのワークスペース確保を推進するほか、情報通信技術を活用したテレワークを推進します。

### (3) 企業誘致の推進

新たな産業団地を造成し企業へ分譲することにより、市民の雇用機会の拡大と地域産業の振興を図ります。

### (4) 新規就農者・新規創業者への支援

最長5年間の農業次世代人材投資資金のほか、本市の特色を生かした園芸作物栽培への補助など、新規就農者への支援を行います。また、関係団体等と連携し、農業の6次産業化を促進します。

新規創業者がチャレンジしやすい環境作りのため、市内商工会等と連携し、育成指導支援を行います。

### (5) スマート農業の推進

本市の農業特性や生産環境、社会情勢などを踏まえつつ、農作業における効率化・省力化につながるスマート農業を調査研究し、最先端技術の導入を促すことで、誰もが働きやすい環境を整え、雇用の創出を推進します。

[令和3年度における重要業績評価指標(KPI)] ※は計画期間における累計値

- 新規就農者支援件数 105件<sup>※</sup>
- 新規創業者数 170件<sup>※</sup>

※サテライトオフィス：企業と離れた場所に、企業の一機能を受け持つ事務所などを設置すること。IT技術の革新などにより分散オフィスが可能になったことにより生まれた概念。

## **2. Kekkon**（結婚）【出会いから結婚までのサポート】

### 【基本目標①】 未来を拓く子どもたちの健やかな成長のために

(1)若者の出会い創出事業の実施

若者の出会い創出事業を官民が連携して実施します。

(2)結婚支援事業を実施する団体への補助

結婚を希望する独身男女に出会いと交流の場を提供し、結婚活動を支援する団体に結婚支援事業への補助金を交付します。

[令和3年度における重要業績評価指標(KPI)] ※は計画期間における累計値

- 出会い創出事業の実施数 5事業※
- 結婚支援事業補助金の補助事業者数 3事業者※

## **3. Kosodate**（子育て）【子育て環境の整備】

### 【基本目標①】 未来を拓く子どもたちの健やかな成長のために

(1)子ども・子育て支援体制の整備

子どもを安心して産み育てていけるよう、すべての子どもと子育て家庭に対する支援体制の充実を図ります。

(2)待機児童ゼロの達成

子育て世代が子育てと仕事を両立できるよう保育園や認定こども園等の整備を行います。また、延長保育、休日保育、病児・病後児保育など多様な保育サービスの一層の充実を図ります。併せて、放課後児童クラブの充実を図ります。

(3)子育て親子の交流促進

ファミリーサポートセンターやつどいの広場、子育てサロンなどの充実を図るとともに、子育てサイトによる情報共有を促進します。

(4)子どもの権利の尊重

子どもが子どもらしく健やかに生活できるよう、那須塩原市子どもの権利条例に基づき、

市全体で子どもの成長を支援し見守る環境を作ります。

(5)子どもの健康対策

18歳までの子どもの医療費の自己負担分の助成を行います。(16歳から18歳までは一部自己負担あり)

子どもの予防接種は、定期接種に加えておたふくかぜの予防接種に対し、費用の一部助成を行います。

(6)妊娠・出産への支援

安心して子どもを産み育てられる環境を整えるとともに、妊産婦健康診査費の一部助成等を行います。また、不妊治療においては、保険診療適用外の検査・診療費用の一部助成を行います。

[令和3年度における重要業績評価指標(KPI)]

- 待機児童数 0人
- ファミリーサポートセンター会員数 800人
- 0歳児を持つ親の子育て環境・支援に関する満足度 70%以上
- 新生児乳幼児家庭訪問事業「子育てを楽しくないと思う親の割合」 6%以下

## **4. Kyouiku** (教育) 【学校教育・生涯学習の充実】

### 【基本目標①】 未来を拓く子どもたちの健やかな成長のために

(1)小中一貫教育の充実

義務教育9年間を通じた学びの連続性・系統性を図るため、小中一貫教育を実施し、「人づくり教育」を推進します。

(2)英語教育の推進

国際化が進む現代社会に対応するため、市内全校への外国語指導助手(ALT)の配置を継続するとともに、コミュニケーション力や論理的思考力をもった児童生徒を育成するため、特色ある教育を実施します。

(3)学力向上のための授業づくりの推進

新しい時代に必要となる資質・能力を育成する授業づくりの展開や、私たちの日常生活の中に多種多様な形態で活用されている情報通信技術(ICT)の教育現場での利活

用など、学力向上のための授業づくりを推進します。

#### (4)学習機会の充実

生涯にわたって「いつでも、どこでも、だれでも」が学習できる機会を提供するため、「那須塩原市民大学」講座を実施するなど、ライフステージに合わせた市民の学習活動を支援します。

#### (5)体験教育の充実

児童が実際に目で見て、手で触れることができる体験型の教育を推進します。

#### (6)不登校児童生徒への支援の充実

本市が運営する適応指導教室及び宿泊体験施設を活用し、不登校児童生徒等の自立を支援するほか、児童生徒へのアンケート調査の実施等、未然防止にも取り組みます。

#### (7)安全で快適な学校の整備

児童生徒が快適に活動できるよう、市内の小・中学校等の施設や設備の改修を行うとともに、施設の長期有効活用を図るため、長寿命化に取り組み、児童生徒が安全に安心して学習できる環境を整えます。

#### (8)地域学校協働本部の設置

地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもを育て、子どもと大人が学校や地域とともに触れ合い、学びあう活動を通して地域の活性化を目指すことを目的として、中学校区を一つのエリアとし、市内 10 地区に本部を設置します。

#### [令和3年度における重要業績評価指標(KPI)]

- 小中一貫教育を推進する学校数 市内全校(10中学校区)
- 外国語指導助手(ALT)の全校配置 継続
- 不登校出現率 小・中・義務教育学校ともに県の出現率以下
- 地域学校協働本部設置数 10

#### [達成済み重要業績評価指標(KPI)]

- 小・中学校の耐震化率 100%(平成 27 年度に事業完了)



## **5. Kurashi・Kankyou**（暮らし・環境）【快適な生活への支援】

**【基本目標②】 未来を創る地域産業の活性化のために**

**【基本目標③】 未来に集う人々の活発な交流のために**

**【基本目標④】 未来を守る災害対応力の強化のために**

### (1) 移住・定住者への支援

本市へのUJターンを促進するため、移住者に対し、新幹線通勤の補助等、定住するための支援を行います。また、本市で新たに3世代同居や隣居のために住宅取得等をする方に対して補助を行い、家族の絆の再生を図ります。

### (2) 自然と共生するライフスタイルの推進

日常生活や事業活動を見直し、省エネルギーに取り組むことに加え、再生可能エネルギーの適正な導入を促進することで、温室効果ガスの排出削減を図ります。生活の中で「木のぬくもり」を感じられるよう、木材利用の推進を図ります。

人々が自然と触れ合いやすらぎを得られる自然環境や田園風景を守るため、土地利用の適切な規制及び誘導を行います。

### (3) 安全安心な生活環境の確保

人と人との支え合いによる、安全に安心して暮らせる地域づくりの推進のほか、災害に強い土地である本市の特長を生かしたまちづくりの方策の検討及びPRを行います。

市内の上水道の施設等の更新を行い、安全で安心なおいしい水を供給し、将来にわたった水の安定供給に努めます。

放射能対策は、住宅等についての除染を継続するとともに、空間放射線量の測定及び食品放射性物質の測定などを行い、正確な情報を提供します。

### (4) 那須塩原市版スマートシティの実現

本市が有する自然資源に加え、農観商工の各分野における豊富な地域資源を活用し、ICT やエネルギー技術を組み合わせながら、快適、安全・安心、持続可能なスマートシティを目指します。

### (5) 空き家等の適正管理、利活用及び除却の促進

市内に点在する空き家等の適正管理、利活用及び除却を促進します。

### (6) 市民の健康増進対策

日常的な診療や健康管理等を行ってくれる「かかりつけ医」の普及啓発に努めます。

また、生活習慣病の発症予防をはじめ、市民の健康づくりを推進するほか、健康増進を図るため温泉等を活用した事業を行います。

#### (7)地域公共交通網の充実

地域バス「ゆーバス」や、平成30年10月から導入された「ゆータク(平成30年9月以前は予約ワゴンバス)」を運行するとともに、随時見直しを行うことで、より利用しやすい地域公共交通網の整備に努めます。

#### (8)コンパクトシティの形成

立地適正化計画の推進により、集約型の都市構造への転換を図り、効率的で持続可能な都市づくりを推進します。また、地域の特徴や歴史的な成り立ちを考慮した複数の拠点を設定し、緩やかな誘導手法により、望まれる将来都市構造の実現を目指します。

中山間地域等においては、将来に渡って地域住民が暮らし続けることができるよう、必要な生活サービスの維持・確保や地域における仕事・収入を確保し、将来に渡って継続できるような「小さな拠点」の形成を推進します。

#### (9)地球温暖化に伴う気候変動への適応

気温の上昇、大雨の頻度の増加など、気候変動による影響への適応を進めるため、気候変動対策局と地域気候変動適応センターを設置し、気候変動による被害の回避や軽減対策(適応策)に取り組んでいくことにより、安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進めます。

#### (10)地域の防災力の強化

自主防災組織の結成促進、結成後の組織の活動支援及び地域と行政の連携体制を強化することで、地域の防災力を高めます。

[令和3年度における重要業績評価指標(KPI)] ※は計画期間における累計値

- 新幹線定期券購入補助件数 210件※
- 三世帯同居等世帯定住支援補助件数 150件
- 公共交通(ゆーバス、ゆータク(予約ワゴンバス))利用者数 931,000人※
- 用途地域内人口割合 48%
- 市域から排出される温室効果ガスの量 936,000t-CO<sub>2</sub>(令和2年度:那須塩原市地球温暖化対策実行計画の短期目標を引用)
- 自主防災組織のカバー率 95%

## **6. Kouryu**（交流）【人と人、人と自然がふれあう場の提供】

【基本目標②】 未来を創る地域産業の活性化のために

【基本目標③】 未来に集う人々の活発な交流のために

【基本目標④】 未来を守る災害対応力の強化のために

### (1)市全体での魅力ある観光地づくり

市内農観商工関係団体等と連携することにより、風光明媚な自然や温泉などの豊かな観光資源と、本市ならではの食のコンテンツを結び付け、双方活性化することを目指します。それらの地域資源を生かした ONSEN・ガストロノミーを通して、他の地域にはない魅力ある観光地づくりを推進し、観光プロモーションの充実を図ります。

アートを活用したまちづくりに市民協働で取り組むとともに、日本遺産をはじめとした文化財の活用に取り組むなど、本市の魅力を活かしたまちづくりを進めます。

### (2)国際交流の推進

語学力が高く、各地の地方公共団体等で活躍している国際交流員(CIR)を招致し、異文化交流・多文化共生を推進します。

海外との姉妹都市協定の締結に向けた調整を行います。

海外でのインバウンド※拠点を設けるとともに、海外からの観光客に対応できる体制を整えます。

### (3)道の駅等を活用した交流拠点の整備

市内にある道の駅について、地域の特色を生かし、地域の人や観光者など多くの人と交流できる魅力ある拠点となるよう、施設機能を強化するための整備を行います。また、市有施設等の有効活用について検討を進めます。

### (4)個性豊かな駅前地区の創出

市内のJR各駅(那須塩原駅・黒磯駅・西那須野駅)それぞれの現状を踏まえ、駅前周辺の整備を進めることで、それぞれの特性を活かした駅前地区を創出します。

### (5)自治会・地域コミュニティの活性化

地域の若者などがより参加しやすい公民館事業を充実させるとともに、地域住民のつながり構築のため、自治会やコミュニティの活性化を図ります。また、都市住民を「地域おこし協力隊」として受け入れ、地域住民との交流を推進します。

※インバウンド：「入ってくる、内向きの」という意味で、観光業界において外国人旅行者を自国へ誘致すること。

#### (6)スポーツイベントの開催と誘致

誰もがスポーツを楽しむ環境づくりを行うとともに、健康・体力の増進とスポーツを通じた交流を推進するため、東京2020オリンピック・パラリンピック事前等のキャンプ地の誘致に向けた取り組みや、2022年に本県で開催される国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の準備を進めます。

#### (7)定住自立圏構想の推進

本市が中心市となる「那須地域定住自立圏」と構成市として参加している「八溝山周辺地域定住自立圏」とにおいて、圏域での連携を図るとともに、両圏域のそれぞれが持つ魅力を活用し、事業を推進していきます。

[令和3年度における重要業績評価指標(KPI)] ※は計画期間における累計値

- 観光客入込数 1,040万人  
観光客宿泊者数 110万人
- 地域おこし協力隊隊員数 6名(年間延べ人数)
- 那須地域定住自立圏共生ビジョンの連携事業数 16事業

[達成済み重要業績評価指標(KPI)]

- 黒磯駅周辺地区再生整備計画の推進 整備完了(令和元年度整備完了)

## **7. Kouhou** (広報) 【的確な情報提供・市の魅力PR】

### 【基本目標③】 未来に集う人々の活発な交流のために

#### (1)戦略的なシティプロモーションの推進

シティプロモーション指針に基づき、本市の魅力発信に市民協働で取り組むことにより、本市の認知度や魅力を高めます。

#### (2)那須塩原ブランド等の積極的なPR

本市独自の基準により認定している「那須塩原ブランド」や本市自慢の農畜産物のPRを首都圏等で行います。

#### (3)市民協働によるPR活動の推進

市内外の方に本市の魅力を自発的に発信する「ファン」を増やします。なすしおばらファンクラブの会員による情報発信を官民連携して行うほか、本市出身者をはじめ、本市

をPRする意欲のある方を「ふるさと応援隊」に任命し、那須塩原市PRのための活動を支援します。

(4)ICTを活用した情報提供

ホームページ、みるメール及びSNS※などのツールを積極的に活用した情報発信を行い、いつでも市の情報が入手できる環境を整えます。

(5)定住情報窓口の一元化

定住を検討している方へ効果的に情報を提供するため、定住促進窓口を明確化し、ワンストップサービスに努めます。

[令和3年度における重要業績評価指標(KPI)] ※は計画期間における累計値

- なすしおばらファンクラブの会員数 1,200 人※
- みるメールの登録者数 14,800 人
- 市移住促進センターへの相談件数 200 件



※SNS：「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」の略。個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。趣味、職業、居住地域などを同じくする個人同士のコミュニティを容易に構築できる場を提供している。

## 第8節 今後の進め方

平成26年3月に策定した定住促進計画は、少子高齢化の進展や生産年齢人口の減少、地域の賑わいの喪失などの課題に対し、将来を見据えた速やかな対応を図るための戦略的ビジョンとして位置づけ策定したものです。

本計画に基づき、本市独自のサービスを提供し本市の個性を明確にしていくことで、「住民から選ばれるまちづくり」「人口の減らないまちづくり」の実現に向け取り組んできたところであり、本市の定住促進計画と国が自治体に策定を求める地方版総合戦略とは、人口減少対策と地方の創生といった点ではその目的が同じであるため、定住促進計画を改定することにより、本市の「総合戦略」としました。

また、平成29年には、新たに第2次総合計画を策定したことから、本戦略においても時点修正を行い、整合を図りました。さらには、令和元年度で本戦略の5年間の計画期間が終了することに伴い、第2次総合計画の計画期間との整合を図るため、本戦略を2年間延伸しました。

今後は、総合計画との連動を図りながら、PDCAサイクルによる効果検証を実施するとともに、第2期総合戦略について、第2次総合計画と一体的に検討を行います。

あわせて、関係する部局が常に連携し、効率的・効果的な推進を図るとともに、市民・地域・NPO・企業・行政などが相互に連携・協働する市民協働により、本戦略を着実に推進していきます。

